

**IBM Producer Lifecycle and Credential  
Management**  
バージョン 2.0.5

**インストールと構成のガイド**

**IBM**

#### 注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、53ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

## 製品情報

本書は、IBM Producer Lifecycle and Credential Management バージョン 2.0.5 に適用されます。また、以降のリリースにも適用される可能性があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Producer Lifecycle and Credential Management  
Version 2.0.5  
Installation and Configuration Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2014, 2016.

# 目次

概要	v
<b>第 1 章 インストールの概要</b>	<b>1</b>
インストールの準備	1
プリインストール・チェックリスト	1
Java 8 のインストール	2
Microsoft SQL Server のインストール	3
データベース作成	3
Microsoft SQL Server データベース権限の要件	4
JBoss Drools Guvnor のインストール	4
JBoss jBPM Designer のインストール	5
IBM Producer Lifecycle and Credential Management ソフトウェアのインストール	5
インストール・ファイル	6
<b>第 2 章 サービスの構成</b>	<b>7</b>
データベースへのアクセス権限の構成	7
JBoss Drools Guvnor へのアクセス権限の構成	8
言語の構成	9
メール設定の構成	10
移行の区切り文字の構成	11
ライセンス・メトリックの追跡	11
ライセンス追跡の詳細の構成	12
IBM License Metric Tool との統合	12
Cookie の名前の変更	13
SSL 設定の構成	14
HTTP プロトコルの無効化	15
運用タイム・ゾーンの構成	15
メモリー・スペースの増大	15
サービスのインストール	16
サービスの自動始動の設定	16
例外ログの表示	17
アプリケーションを開く	17
<b>第 3 章 システム構成設定</b>	<b>19</b>
アプリケーションのブランドのカスタマイズ	19
National Insurance Producer Registry 構成設定の追加	20
Financial Industry Regulatory Authority 構成設定の追加	21
Depository Trust & Clearing Corporation 構成設定の追加	22
E メール通知の有効化	23
販売人設定	23
賠償責任補償保険設定の構成	23
単一の商品に対する複数の委嘱の生成の有効化	24
資格契約制限の構成	24
事前雇用の有効化	25
オンボーディング・キットの取り消しおよび却下の制約の構成	25
ログイン設定の構成	26
通貨形式、パーセンテージ形式、および名前形式の構成	26
経歴審査設定の構成	28
ユーザー定義ワークフローのマッピング	29
文書管理システムとの統合	29

文書管理システム設定の構成	29
操作構成	30
移行ディレクトリーの構成	30
一括変更のインポート設定の構成	31
IBM Incentive Compensation Management との同期の構成	31
<b>第 4 章 ワークフローとルールの構成</b>	<b>33</b>
ワークフローの説明	33
ルールのインポート	36
ワークフロー・オブジェクトのインポート	37
プロセスのインポート	37
ワークフローの構成	38
ルールの再ロード	39
<b>第 5 章 認証とサインオン</b>	<b>41</b>
シングル・サインオン構成	41
独自の鍵ストアの生成と抽出	41
シングル・サインオンの構成	42
ID プロバイダー用のアクセスのセットアップ	44
鍵ストアへの公開鍵のインポート	45
LDAP 認証の構成	45
<b>第 6 章 アップグレード</b>	<b>47</b>
Microsoft SQL Server データベースのバックアップおよび復元	47
データベースのバックアップ	47
データベース・バックアップの復元	48
バックアップおよび復元を使用したサーバー間でのデータベースの転送	48
Java 8 でのアップグレード	48
データベースのアップグレード	49
アプリケーションのアップグレード	50
<b>付録. アクセシビリティ機能</b>	<b>51</b>
キーボード・ショートカット	51
IBM とアクセシビリティ	52
<b>特記事項</b>	<b>53</b>
<b>用語集</b>	<b>57</b>
A.	57
C.	57
D.	57
H.	57
I.	57
L.	57
N.	57
O.	57
P.	58
S.	58
W.	58
<b>索引</b>	<b>59</b>

---

## 概要

本書は、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management バージョン 2.0.5 を対象としています。

Producer Lifecycle and Credential Management は、保険顧客が、販売人と代理店のオンボーディング、販売人と代理店の管理、販売人の自己サービス、階層管理、資格の管理、および資格の検証のために使用できる単一プラットフォームを提供します。

### 対象読者

このガイドの対象読者は、Producer Lifecycle and Credential Management をインストールおよび構成する管理者です。

### 情報の検索

Web で資料 (すべての翻訳資料を含む) を検索するには、IBM® Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>) にアクセスします。

### 公開日

本書は 2016年4月1日に発行されました。

### アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが IT 製品を使用できるようにサポートします。IBM の HTML 文書は、アクセシビリティ機能を備えています。PDF 文書は補足的なもので、それ自体には追加のアクセシビリティ機能はありません。これらの機能については、51 ページの『アクセシビリティ機能』を参照してください。

### 将来の見通しに関する記述

本資料は、製品の現行機能について説明するものです。現在利用できない項目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆するものではありません。このような言及は、なんらかの資料、プログラム、または機能を提供するという誓約、保証または法的義務ではありません。IBM はその裁量に基づき、フィーチャーまたは機能の開発、リリース、およびタイミングを決定します。



---

## 第 1 章 インストールの概要

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management インストール・パッケージには、アプリケーションをインストールおよび構成するのに必要なファイル、およびワークフローを実行するのに必要なルールおよびプロセスが含まれます。

Producer Lifecycle and Credential Management は、Microsoft Windows サービスとして実行されます。データベースをポイントするようにサービスを構成した後、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを始動する必要があります。

Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるワークフロー・ルールおよびプロセスは JBoss Drools Guvnor にインポートする必要があります。

---

### インストールの準備

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management をインストールする前に、アプリケーションを実行するのに必要なソフトウェアをダウンロードする必要があります。

Microsoft SQL Server を使用して Producer Lifecycle and Credential Management 用の空のデータベースを作成する必要があります。アプリケーションに初めてログインすると、デフォルトの表および参照データがデータベースにロードされます。

Producer Lifecycle and Credential Management でワークフロー・ルールおよびビジネス・ルールを実行するには、JBoss Drools Guvnor および JBoss jBPM Designer をダウンロードし、Web アプリケーション・サーバーにデプロイする必要があります。これらの 2 つのアプリケーションは互いに連係して、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションのワークフロー・ルール・エンジンとして機能します。

オペレーティング・システム、ブラウザ、Web サーバー、データベース・サーバー、アプリケーション・サーバーなど、Producer Lifecycle and Credential Management でサポートされる環境の最新のリストを確認するには、ソフトウェア要件 (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27047756>) を参照してください。

### プリインストール・チェックリスト

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションを開く前に、アプリケーションを実行するのに必要なソフトウェアをダウンロードし、インストールする必要があります。

以下の製品をインストールする必要があります。

#### **JBoss Drools Guvnor 5.5.0**

これは、Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるワークフローおよびビジネス・ルールを保管するために必要です。

### JBoss jBPM Designer 2.4

これは、Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるワークフローを追加および編集するために、Guvnor アプリケーションと統合されます。

### Web アプリケーション・サーバー

これは、Guvnor および Designer の WAR ファイルをデプロイするために使用されます。Web アプリケーション・サーバーの例として、Apache Tomcat、WebSphere®、JBoss などがあります。

### Oracle Java™ Software Development Kit、Java Runtime Environment、または Java Development Kit 8.0

これは、Web サーバー・アプリケーションを実行するために必要です。

### Microsoft SQL Server 2008 R2 または 2008 SP3 または 2012

これは、Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるデータベースを作成および保管するために必要です。

### 関連タスク:

5 ページの『IBM Producer Lifecycle and Credential Management ソフトウェアのインストール』

必要なソフトウェアをインストールし、構成した後、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management をインストールできます。

## Java 8 のインストール

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management と Guvnor で Java 8 を使用するには、両方のアプリケーションで一部の構成設定を更新する必要があります。

### 手順

1. Java 8 をサーバーにインストールします。

**注:** 別のバージョンの Java をサーバーで実行している場合は、Java 8 への絶対パス参照を使用するように wrapper.conf ファイルをオーバーライドできます。

- a. wrapper.conf ファイルを開いて、**wrapper.java.command** パラメーターを Java 8 の絶対パスに変更します。

例えば、wrapper.java.command = C:\Program Files\Java\jre1.8.0\_66\bin\java.exe と入力します

次の例のようにすべてのスラッシュをエスケープします。

```
wrapper.java.classpath.1 = .\lib\*.jar
```

2. 以下のステップを実行して Guvnor ライブラリーを更新します。

- a. ecj-4.4.2.jar ファイルを次のリンクからダウンロードします。

<http://mvnrepository.com/artifact/org.eclipse.jdt.core.compiler/ecj/4.4.2>

- b. Tomcat 6 上の Drools サービスを停止します。
- c. サーバー上の Tomcat 6 に移動します。
- d. %APACHE\_LOCATION%\webapps\drools-guvnor\WEB-INF\lib に移動します。
- e. ecj-3.5.1.jar ファイルを削除します。
- f. フォルダーに ecj-4.4.2.jar ファイルをコピーします。

- g. Tomcat 6 上の Drools サービスを再始動します。
  - h. 「パッケージの作成 (Build Package)」を実行します。
3. すべての「switch」ステートメントを「if」ステートメントに変更します。

「switch」ステートメントを利用する Drools ルールがある場合、「if」ステートメントを使用するように、それらのルールを更新する必要があります。バージョン 2.0.3 では、コア・ルールが更新されています。すべてのユーザー定義ルールも更新されていることを確認してください。

## 次のタスク

Java 8 がインストールされているデータベースのアップグレードについては、48 ページの『Java 8 でのアップグレード』を参照してください。

## Microsoft SQL Server のインストール

Microsoft SQL Server をインストールし、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management のデータベースを作成する必要があります。

### このタスクについて

**重要:** データベース・サーバーを再始動するときは、IBM PLCM サービスも再始動する必要があります。IBM PLCM サービスを再始動しないと、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションにエラー・メッセージが表示されません。

### 手順

1. MicrosoftWeb サイト (<http://microsoft.com>) に移動し、Microsoft SQL Server 2008 R2 をダウンロードします。
2. ソフトウェアをインストールします。
3. SQL Server 構成マネージャーの「SQL Server ネットワークの構成」 > 「MSSQLSERVER のプロトコル」で、「TCP/IP」プロトコルを有効にします。
4. SQL Server 構成マネージャーの「SQL Server ネットワークの構成」 > 「SQL Server のサービス」で、「SQL Server Browser」サービスが実行されていることを確認します。
5. SQL Server 構成マネージャーで変更を行った場合、サーバーを再始動します。

## 次のタスク

Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、Producer Lifecycle and Credential Management 用のデータベースを作成する必要があります。

## データベース作成

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーション用のデータを保管するために、Microsoft SQL Server でデータベースを作成する必要があります。

データベースを作成する際に、Producer Lifecycle and Credential Management テーブルにアクセスするために Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションでのみ使用されるユーザー ID を追加する必要があります。このアプリケーション・ユーザー ID には、Producer Lifecycle and Credential Management データベースの管理者権限が必要です。

同じデータベース・サーバーに複数の Producer Lifecycle and Credential Management データベースがある場合に環境を管理するために、各データベースに PLCM という名前を付け、データベースに含まれる環境のタイプを示す接尾部を追加できます。例えば、開発データベースには PLCM\_DEV という名前、実動データベースには PLCM\_PROD という名前を付けることができます。

Producer Lifecycle and Credential Management データベースに必要な初期サイズはありませんが、データベースを特定サイズに制限しないでください。

## Microsoft SQL Server データベース権限の要件

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management では、データベース・サーバーへの管理アクセスは必要ありませんが、データベースにアクセスするために、データベース所有権を付与する必要があります。

Producer Lifecycle and Credential Management で使用するデータベースを作成する際に、Producer Lifecycle and Credential Management がデータベース所有者 (dbo) としてセットアップされるようにしてください。dbo 権限を付与できない場合、次の最小必須権限を持つユーザーを追加する必要があります。

- 接続
- テーブルの作成
- ビューの作成
- 実行
- 選択
- 削除
- 挿入
- 更新
- データベース状態の表示

**重要:** Producer Lifecycle and Credential Management dbo 権限を付与することをお勧めします。

## JBoss Drools Guvnor のインストール

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management のワークフローおよびビジネス・ルールを構成するには、JBoss Drools Guvnor をインストールし、デプロイする必要があります。

### 手順

1. JBoss Web サイト (<http://download.jboss.org/drools/release/5.5.0.Final/guvnor-distribution-5.5.0.Final.zip>) に移動します。
2. JBoss Drools Guvnor 5.5.0 をダウンロードします。

3. アプリケーション・サーバーに適合する JBoss Drools Guvnor WAR ファイルの名前を drools-guvnor.war に変更します。
4. WAR ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイします。

### 次のタスク

デフォルトでは、Guvnor ではパスワード検査は強制されません。認証を強制するには、Guvnor が適切なユーザー・ディレクトリーを使用するように構成する必要があります。詳しくは、Guvnor の資料 (<http://docs.jboss.org/drools/release/5.5.0.Final/drools-guvnor-docs/html/ch14.html>) を参照してください。

JBoss jBPM Designer をインストールして、JBoss Drools Guvnor と統合する必要があります。

## JBoss jBPM Designer のインストール

JBoss jBPM Designer は、JBoss Drools Guvnor と統合され、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management のプロセスを追加および編集するために使用されます。

### 手順

1. JBoss Web サイト (<http://sourceforge.net/projects/jbpm/files/designer/designer-2.4/>) に移動します。
2. JBoss jBPM Designer 2.4 をインストールします。
3. WAR ファイルの名前を designer.war に変更します。
4. designer.war ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイします。

### 次のタスク

JBoss Drools Guvnor を開き、Producer Lifecycle and Credential Management のワークフローおよびビジネス・ルールを保管するパッケージを作成します。JBoss Drools Guvnor および jBPM Designer をセットアップした後、Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるワークフローおよびルールのファイルをインポートする必要があります。

#### 関連概念:

33 ページの『第 4 章 ワークフローとルールの構成』

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management を実行するために必要なワークフローおよびルールを JBoss Drools Guvnor にインポートし、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションを処理するように構成する必要があります。

---

## IBM Producer Lifecycle and Credential Management ソフトウェアのインストール

必要なソフトウェアをインストールし、構成した後、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management をインストールできます。

## 手順

1. Producer Lifecycle and Credential Management の setup.exe ファイルをダブルクリックします。
2. インストール・ウィザードのステップに従います。

## タスクの結果

Producer Lifecycle and Credential Management インストール・ファイルがコンピューターに保存されます。

### 関連概念:

1 ページの『プリインストール・チェックリスト』

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションを開く前に、アプリケーションを実行するのに必要なソフトウェアをダウンロードし、インストールする必要があります。

### 関連タスク:

50 ページの『アプリケーションのアップグレード』

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスの新しいバージョンをインストールして、アプリケーションをアップグレードする必要があります。

## インストール・ファイル

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションには、複数のインストール・ファイルが付属しています。

リリース・フォルダーには、アプリケーションの構成や実行に必要なファイル、および Drools Guvnor でルールやワークフローをセットアップするために必要なファイルが含まれています。これらのワークフローおよびルールは、Producer Lifecycle and Credential Management で使用されます。

表 1. インストール・ファイル:

インストール・ファイル名	説明
installService.bat	アプリケーションにログインするには、このサービスを始動する必要があります。
PLCMObjects.jar	このファイルには、Producer Lifecycle and Credential Management ルールおよびプロセスで使用されるオブジェクトが含まれます。このファイルは Drools Guvnor にインポートする必要があります。
PLCMRules.dr1	このファイルには、Producer Lifecycle and Credential Management ワークフローに必要なルールおよびプロセスが含まれます。このファイルは Drools Guvnor にインポートする必要があります。
<plcm workflow>.bpmn2 ファイル	これらのファイルには、Producer Lifecycle and Credential Management に必要なワークフローが含まれます。これらのファイルは Drools Guvnor にインポートする必要があります。

---

## 第 2 章 サービスの構成

アプリケーションを開く前に、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management サービスがデータベースおよび Guvnor をポイントするように構成する必要があります。

データベースへのアクセスの構成に加えて、application.conf ファイルを構成して以下のタスクを実行できます。

- デフォルト言語の設定
- メール設定の構成
- ライセンス・メトリック・レポートの設定の構成

wrapper.conf を構成して、以下のタスクを実行することもできます。

- SSL の開始
- メモリー・スペースの設定

### 関連タスク:

50 ページの『アプリケーションのアップグレード』

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスの新しいバージョンをインストールして、アプリケーションをアップグレードする必要があります。

---

## データベースへのアクセス権限の構成

Microsoft SQL Server データベースをポイントするように IBM® Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを構成する必要があります。

### 始める前に

Microsoft SQL Server データベースを作成済みであることが必要です。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:¥IBM PLCM¥plcm-service¥conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. データベースをポイントするように db.sql.ur1 値を構成します。

**重要:** 次のいずれかの値で特殊文字を使用する場合、二重引用符 (") を使用して特殊文字をコメント化する必要があります。例えば、パスワードが s3cr\*t の場合、値として s3cr"\*t を入力します。

以下の値を編集する必要があります。

### SERVER\_ADDRESS

Microsoft SQL Server がインストールされているコンピューターのホスト名。

- 1433** デフォルトの Microsoft SQL Server ポート。指定のインスタンスに接続する場合、場合によりポート番号を編集する必要があります。ポート番号を確認するには、Microsoft SQL Server Configuration Manager を使用します。

### databaseName

Microsoft SQL Server で Producer Lifecycle and Credential Management 用に作成したデータベースの名前。

### instance

Microsoft SQL Server インスタンスの名前。

- db.sql.user** の値を、データベースをアクセスするための適切な権限を持つ Microsoft SQL Server アカウントへのアクセス権限を持つユーザーに設定します。
- db.sql.password** の値を、データベースをアクセスするための適切な権限を持つ Microsoft SQL Server アカウントへのアクセス権限を持つユーザーのパスワードに設定します。
- ファイルを保存します。

## 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを始動する必要があります。

---

## JBoss Drools Guvnor へのアクセス権限の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるワークフローおよびルール定義を保管するために、JBoss Drools Guvnor へのアクセス権限を構成する必要があります。

### 始める前に

JBoss Drools Guvnor 5.5.0 をダウンロードおよびインストールし、Web アプリケーション・サーバーを使用してそれをデプロイする必要があります。Guvnor で、Producer Lifecycle and Credential Management のワークフローおよびルール定義を保管するためのパッケージを作成する必要があります。

### 手順

- 次の場所に移動します。C:\Program Files\IBM\PLCM\plcm\service\conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。アプリケーションを別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

- application.conf ファイルを開きます。
- Drools configuration セクションで、以下の値を編集します。

#### rules.packageURL

この値は、Producer Lifecycle and Credential Management のワークフロ

ーおよびルール定義を含む JBoss Drools Guvnor パッケージ・バイナリーをポイントしている必要があります。値を見つけるには、Guvnor で、作成したパッケージを選択し、「編集」タブをクリックし、「パッケージ・バイナリーの URL (URL for packaging binary)」リンクの横の URL を表示します。

#### **rules.PoJoModelURL**

この値は、モデル・セットをダウンロードする URL をポイントしている必要があります。Producer Lifecycle and Credential Management でルールを再ロードするように、この値を構成してください。値を見つけるには、Guvnor で、作成したパッケージを選択し、「編集」タブをクリックし、「POJO モデル (POJO Model)」リンクの横の URL を表示します。

#### **rules.ChangeSetURL**

この値は、変更セットの URL をポイントしている必要があります。Producer Lifecycle and Credential Management でルールを再ロードするように、この値を構成してください。値を見つけるには、Guvnor で、作成したパッケージを選択し、「編集」タブをクリックし、「変更セット (Change Set)」リンクの横の URL を表示します。

#### **rules.user**

これは、Producer Lifecycle and Credential Management のワークフローおよびルール定義を含むパッケージへのアクセス権限を持つユーザーです。デフォルトでは、これは admin です。Guvnor のデフォルト認証を変更した場合、代わりに構成したユーザー ID を使用します。

#### **rules.password**

これは、Producer Lifecycle and Credential Management のワークフローおよびルール定義を含むパッケージへのアクセス権限を持つユーザーのパスワードです。デフォルトでは、これは admin です。Guvnor のデフォルト認証を変更した場合、代わりに構成したパスワードを使用します。

4. ファイルを保存します。

## **次のタスク**

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを再始動する必要があります。

---

## **言語の構成**

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで使用する言語を設定できます。

### **このタスクについて**

構成ファイルで 2 つ以上の言語を指定すると、使用される言語はブラウザーの言語に基づきます。以下の言語を利用できます。

- 英語: en
- ドイツ語: de-DE

- スペイン語: es-ES
- フランス語: fr-FR
- イタリア語: it-IT
- 日本語: ja-JA
- ブラジル・ポルトガル語: pt-BR
- 中国語 (簡体字):zh-CN
- 中国語 (繁体字): zh-TW

Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションに付属の参照データを指定した言語にアップデートするには、適切なスクリプト・ファイルを実行する必要があります。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%IBM PLCM%\plcm\service\conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. **application.langs** の値を、アプリケーションで表示する言語に設定します。
4. ファイルを保存します。

### 次のタスク

Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションに付属の参照データをアップデートするには、適切な言語スクリプトを実行する必要があります。言語スクリプト・ファイルは、IBM Client Success Portal (<https://varicent.support.ibmcloud.com>) にあります。変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを再始動する必要があります。

---

## メール設定の構成

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management で E メールをユーザーに自動的に送信するために、メール設定を構成する必要があります。

### 始める前に

システム管理者から会社のメール・サーバーの詳細を入手します。

Producer Lifecycle and Credential Management で E メールを有効にするには、23 ページの『E メール通知の有効化』を参照してください。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%Program Files%\IBM PLCM%\plcm\service\conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。アプリケーションを別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。

3. 以下のセクションを編集します。

```
# EMAIL configuration
clientName="<name>"
smtp.host="<localhost>"
#All below parameters are optional for Email configuration
smtp.port=<25>
smtp.ssl=<no>
smtp.tls=<no>
smtp.user="<user name>"
smtp.password="<secret>"
```

4. ファイルを保存します。

## 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを再始動する必要があります。

---

## 移行の区切り文字の構成

エクスポートする移行ファイルで使用する区切り文字を IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management application.conf ファイルで設定できます。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:¥IBM PLCM¥plcm¥service¥conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. **migration.column.delimiter** の値を、エクスポートするファイルの列の間で使用する区切り文字に設定します。

これには、1 つの文字または文字セットを指定できます。区切り文字は固有である必要があります。区切り文字は、エクスポートまたはインポートするいずれのデータにも存在してはなりません。

4. ファイルを保存します。

## 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを再始動する必要があります。

---

## ライセンス・メトリックの追跡

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management のライセンス・メトリックの追跡はデフォルトで有効であり、ライセンス・ポリシーに関連するメトリック (管理者ユーザーの数や、アクティブな代理店、支店、および販売人の数など) が追跡されます。この情報を使用すると、Producer Lifecycle and Credential Management の現在の使用がライセンス資格レベル内に収まっているかどうかを判別するのに役立ち、ライセンス違反を未然に防ぐことができます。

ライセンス追跡の詳細は、application.conf ファイルの構成プロパティを指定することにより収集されます。収集されたデータは、C:\IBM\PLCM\plcm\service\logs ディレクトリーに保存されたライセンス使用レポートに表示されます。

## ライセンス追跡の詳細の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションのライセンス条項に関連するデータを収集するように構成プロパティを設定できます。

### このタスクについて

ライセンス・メトリックの追跡はデフォルトで有効になっています。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\IBM\PLCM\plcm\service\conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. License Metric Settings セクションに移動します。
4. 管理者が必要なデータを収集できるようにする、以下の構成プロパティを指定できます。

構成プロパティ	説明
license.metric.enable	ライセンス・メトリック・データを収集しない場合は、この値を false に設定します。
license.metric.scheduledTime	メトリック値を毎日何時に生成するかを設定します。この値は hh:mm:ss の形式で設定する必要があります
license.metric.plcm.dir	絶対ソース・ディレクトリーを設定します。
license.metric.output.dir	IBM ソフトウェア・ライセンス・メトリック・タグ・ファイルを保存する場所 (相対ディレクトリー) を設定します。
license.metric.logger.file.size	SLMT ファイルの最大サイズを設定します。
license.metric.logger.file.number	ソフトウェア・インスタンスごとの SLMT ファイル出力の最大数を設定します。

5. ファイルを保存します。

### 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを始動する必要があります。

## IBM License Metric Tool との統合

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management は IBM ソフトウェア・ライセンス・メトリック・タグ (SLMT) ファイルを生成します。IBM ソフトウェア・ライセンス・メトリック・タグをサポートする IBM License Metric Tool のバージョン

は、ライセンス使用レポートを生成することができます。このセクションでは、Producer Lifecycle and Credential Management のそれらのレポートについて解説します。

デフォルトでは、IBM ソフトウェア・ライセンス・タグ・ファイルは C:\IBM\PLCM\plcm\service\logs ディレクトリーに保存されます。SLMT ファイル設定の構成について詳しくは、12 ページの『ライセンス追跡の詳細の構成』を参照してください。

各 Producer Lifecycle and Credential Management インスタンスは、IBM ソフトウェア・ライセンス・メトリック・タグ・ファイルを生成します。このファイルの値は、Batch Processor によって 24 時間ごとにリフレッシュされます。以下のメトリックがモニターされます。

#### Connection

**Connection** メトリックは、以下のサブタイプを含む場合があります。

##### FINRA

このメトリックは、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションが FINRA に接続されている場合に値「1」を表示します。接続がない場合、値「0」を表示します。

##### NIPR

このメトリックは、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションが NIPR に接続されている場合に値「1」を表示します。接続がない場合、値「0」を表示します。

#### Authorized User

Producer Lifecycle and Credential Management で参照データ、ワークフロー・キュー、およびユーザー定義フィールドまたはユーザー定義セクションを構成するセキュリティー許可がある上級ビジネス・ユーザーの数。

#### Eligible Participant

現在のシステム日付において追跡されているアクティブな適格商品レコードで構成された、個別の当事者 ID の数。

---

## Cookie の名前の変更

Web ブラウザーに保管される IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の Cookie の名前を変更できます。これにより、Producer Lifecycle and Credential Management の各インスタンスに固有の Cookie 名を付与すると、複数のインスタンスに接続することが可能になります。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\IBM\PLCM\plcm\service\conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. play.http.session.cookieName の値を、このインスタンスに固有の名前に設定します。

---

## SSL 設定の構成

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management で、暗号化リンクを確立するために SSL を構成できます。これにより、Producer Lifecycle and Credential Management が HTTP と HTTPS の両方で使用可能になります。

### このタスクについて

Producer Lifecycle and Credential Management は Java 鍵を使用して SSL 証明書および鍵を構成します。鍵ストアを作成した後、鍵ストアを使用するように Producer Lifecycle and Credential Management を構成できます。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\IBM\PLCM\plcm\service\conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. wrapper.conf ファイルを開きます。
3. Configure these parameters for SSL セクションに移動します。
4. 次の行のコメントを外します。

```
wrapper.java.additional.7=-Dhttps.port=443
wrapper.java.additional.8=-Dplay.server.https.keyStore.path=
wrapper.java.additional.9=-Dplay.server.https.keyStore.password=
```

```
wrapper.java.additional.10=-Djava.security.properties="./conf/security.properties"
```

5. 以下の値を構成します。

#### **Dhttps.port**

Producer Lifecycle and Credential Management に HTTPS プロトコルを listen させるポート。

#### **-Dplay.server.https.keyStore.path**

秘密鍵および証明書を含む鍵ストアへのパス。

#### **-Dplay.server.https.keyStore.password**

鍵ストアのパスワード。

6. オプションで、以下の値がデフォルト設定とは異なる場合は、コメントを外して構成できます。

#### **-Dplay.server.https.keyStore.type**

鍵ストアのタイプ。デフォルトでは JKS に設定されています。

#### **-Dplay.server.https.keyStore.algorithm**

鍵ストアのアルゴリズム。デフォルトでは、プラットフォームのデフォルトのアルゴリズムに設定されています。

7. ファイルを保存します。

### 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを再始動する必要があります。

---

## HTTP プロトコルの無効化

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management サーバーへの HTTP アクセスを無効にできます。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%IBM PLCM%\plcm\service\%conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. wrapper.conf ファイルを開きます。
3. Listening port number for the service セクションに移動します。
4. wrapper.java.additional.5=-HTTPd.port の値を disabled に変更します。
5. ファイルを保存します。

### 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを再始動する必要があります。

---

## 運用タイム・ゾーンの構成

管理者は IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の運用タイム・ゾーンを構成できます。これは、クラウド・サーバーのタイム・ゾーンが必要なオペレーティング・システム・タイム・ゾーンと異なる場合に便利です。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%IBM PLCM%\plcm\service\%conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. wrapper.conf ファイルを開きます。
3. 次の行のコメントを外します。 wrapper.java.additional.13=-Duser.timezone=EST
4. この値を必要なタイム・ゾーンに設定します。

---

## メモリー・スペースの増大

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management でメモリー・スペース不足が発生した場合、wrapper.conf ファイルで永続生成ヒープのスペースおよび Java ヒープのサイズを増やすことができます。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%IBM PLCM%\plcm\service\%conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. wrapper.conf ファイルを開きます。
3. `wrapper.java.additional.6=-XX:MaxPermSize` の値を **1024m** に増やします。
4. `wrapper.java.maxmemory` パラメーターの値を増やします。
5. ファイルを保存します。

## 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを再始動する必要があります。

---

## サービスのインストール

アプリケーションを実行するために IBM® Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスをインストールする必要があります。

### このタスクについて

**重要:** データベース・サーバーを再始動するときは、IBM PLCM サービスも再始動する必要があります。IBM PLCM サービスを再始動しないと、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションにエラー・メッセージが表示されません。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%IBM PLCM%\plcm\service\service installer

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. installService.bat ファイルを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。

### 次のタスク

サービスは **IBM PLCM** としてインストールされます。「サービス」ウィンドウを開き、「**IBM PLCM**」サービスを始動する必要があります。

---

## サービスの自動始動の設定

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management 構成ファイルに必要な変更を加えた後で、Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを始動する必要があります。

### このタスクについて

Producer Lifecycle and Credential Management サービスの始動タイプを「自動」に設定できます。

## 手順

1. 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。
2. 「サービス」パネルで「IBM PLCM サービス (IBM PLCM Service)」を選択します。
3. 右クリックし、「プロパティ」を選択します。
4. 始動タイプとして「自動」を選択します。
5. サービスを始動します。

---

## 例外ログの表示

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の実行時に例外が発生した場合、plcm.log ファイルで例外を確認できます。

## 手順

1. 次の場所に移動します。C:¥IBM PLCM¥plcm¥service¥logs

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. plcm.log ファイルを開きます。

---

## アプリケーションを開く

構成ファイルを変更し、サービスを開始した後、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションにログインできます。

## 手順

1. <http://<localhost>:9000/PLCM/logon> にナビゲートします。

ここで、**localhost** はサーバーの名前または IP アドレスであり、**9000** は wrapper.conf ファイルで構成されているポート番号です。デフォルトでは、ポート番号は 9000 に設定されています。

2. 「ユーザー名」フィールドに admin と入力します。
3. 「パスワード」フィールドに、aaaaaaA! と入力します。
4. 「ログイン」をクリックします。



---

## 第 3 章 システム構成設定

管理者は、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management からサード・パーティー・アプリケーションへのアクセスを構成したり、アプリケーションの外観をカスタマイズしたり、任意のユーザー定義ワークフローをデフォルト・ワークフローにマップしたりすることができます。

以下のサード・パーティー・アプリケーションを Producer Lifecycle and Credential Management と連動するように構成できます。

### NIPR の統合

NIPR との契約がある場合、Producer Lifecycle and Credential Management を直接 NIPR と統合できます。免許および委嘱のデータを取得するために、Producer Lifecycle and Credential Management から NIPR 販売人データベースに対してリアルタイムの呼び出しが行われます。Producer Lifecycle and Credential Management は、新規委嘱や委嘱の解約の要求を送信し、免許の更新、取り消し、中断、アラートのファイルや、その他の免許または委嘱の変更のファイルを受信します。

### FINRA の統合

FINRA の Web EFT フォーム申請サービスに登録すると、Producer Lifecycle and Credential Management で、U4、U4 改訂、および U5 形式のファイルを FINRA に送信できます。FINRA から、データ (試験結果、試験期間枠、都道府県登録など) をアップロードできます。

### DTCC の統合

DTCC サービスに登録して、外部企業から DTCC 研修の更新や研修有効期限のレコードを受信すると、Producer Lifecycle and Credential Management で、DTCC から受信した継続教育、委嘱、契約、および販売人の詳細をアップロードできます。

### CMIS の統合

CMIS 文書管理システムまたはその他のサード・パーティー管理システムを使用している場合は、アップロードされた文書を文書管理システムに保管するように Producer Lifecycle and Credential Management を構成できます。

---

## アプリケーションのブランドのカスタマイズ

本社ユーザーは IBM® Producer Lifecycle and Credential Management のアプリケーション・バナーをカスタマイズできます。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」をクリックします。
2. 「テーマ」タブで、「編集」アイコンをクリックします。
3. 「参照」をクリックして、アプリケーション・バナーに表示するイメージをアップロードします。

イメージは、2 MB より小さく、かつ JPEG または PNG ファイル形式でなければなりません。

4. 必要なフィールドに入力します。
5. 「OK」をクリックします。

## National Insurance Producer Registry 構成設定の追加

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management から National Insurance Producer Registry (NIPR) データベースへのアクセスを構成できます。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」をクリックします。
2. 「NIPR」タブで、「編集」アイコンをクリックします。
3. 「NIPR 構成インディケータ」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
4. 以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
NIPR カスタマー番号	NIPR から提供されたカスタマー番号。
NIPR カスタマー PIN	NIPR から提供されたカスタマー PIN。
NIPR カスタマー ID	NIPR から提供されたカスタマー ID。
NIPR PDB URL	NIPR データベースの URL。
NIPR バッチ接頭部	NIPR から提供されたバッチ接頭部。
NIPR E メール・アドレス	NIPR E メール・アドレス。
支払アカウント ID	NIPR に登録されている、都道府県委嘱処理用の銀行口座。
支払タイプ	「支払アカウント ID」フィールドに関連付けられている支払タイプ。
NIPR FTP サーバー	これは、NIPR から都道府県委嘱ファイルにアクセスするために必要です。
NIPR FTP ユーザー名	NIPR FTP サーバーにログインするために使用するユーザー名。
NIPR FTP パスワード	NIPR FTP サーバーにログインするために使用するパスワード。
インバウンド・ファイル・ディレクトリー	インバウンド・ファイルのディレクトリー名。
アウトバウンド・ファイル・ディレクトリー	アウトバウンド・ファイルのディレクトリー名。
アラート・サービス URL (ホスト部分)	アラート・サービスの URL。NIPR からアラートを受信するために必要です。

フィールド	説明
委嘱の自動日付遡及処理	NIPR に送信する委嘱の日付を、都道府県から許可されている猶予期間分、Producer Lifecycle and Credential Management が自動的に遡るようにするには、この値を「はい」に設定します。Producer Lifecycle and Credential Management が現在のシステム日付で有効になるように委嘱を送信するには、この値を「いいえ」に設定します。
サブスクリプション名	これは NIPR アラート・サブスクリプションの名前です。

5. 「OK」をクリックします。

## Financial Industry Regulatory Authority 構成設定の追加

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management から Financial Industry Regulatory Authority (FINRA) データベースへのアクセスを構成できます。これにより、スケジューリング・ツールを使用して、Producer Lifecycle and Credential Management が、FINRA との間でデータのインポートおよびエクスポートを行うことができるようになります。

### 始める前に

FINRA のメンバーになっていること、および FINRA ダウンロード・サービスまたはフォーム申請サービス、あるいはこの両方に登録する必要があります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」をクリックします。
2. 「FINRA」タブで、「編集」アイコンをクリックします。
3. 「FINRA 構成インディケータ」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
4. 以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
FINRA ユーザー ID	FINRA サーバーにアクセスするために使用するユーザー ID。
FINRA パスワード	FINRA サーバーにアクセスするために使用するパスワード。
FINRA FTP サーバー	FINRA サーバーのアドレス。
ダウンロード・サービス・ディレクトリー	ファイルにアクセスできるディレクトリー。

フィールド	説明
EFT ダウンロード・サービス・インディケーター	FINRA ファイル・ダウンロード・サービスに登録する場合は、「はい」を選択します。販売人の U4 申請後は、Producer Lifecycle and Credential Management が、販売人の FINRA 資格変更の日次フィードを受信するようになります。例えば、FINRA から Producer Lifecycle and Credential Management に、販売人の試験期間枠および都道府県登録が送信されます。
EFT フォーム申請サービス・インディケーター	フォーム申請サービスに登録する場合は、「はい」を選択します。これにより、証券販売人の解約や、証券販売人の企業への登録を行えるようになります。

5. 「OK」をクリックします。

## Depository Trust & Clearing Corporation 構成設定の追加

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management から Depository Trust & Clearing Corporation (DTCC) データベースへのアクセスを構成できます。これにより、スケジューリング・ツールを使用して、Producer Lifecycle and Credential Management が、DTCC から継続教育、契約、都道府県委嘱、および販売人の詳細を取得できるようになります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」をクリックします。
2. 「DTCC」タブで、「編集」アイコンをクリックします。
3. 「DTCC 構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
4. 以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
DTCC LNA (Licensing & Appointments) インディケーター	DTCC LNA サービスに登録する場合は、「はい」を選択します。
DTCC 現金決済インディケーター	DTCC 現金決済サービスに登録する場合は、「はい」を選択します。このサービスを Producer Lifecycle and Credential Management と統合すると、歩合およびインセンティブの結果をアプリケーションに送信できます。
DTCC ユーザー ID	DTCC サービスにアクセスするために必要なユーザー ID。
DTCC パスワード	DTCC サービスにアクセスするために必要なパスワード。
DTCC FTP サーバー	DTCC FTP サーバーの URL。

5. 「OK」をクリックします。

---

## E メール通知の有効化

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management で E メールをユーザーに自動的に送信するために、アプリケーションでメール設定を構成する必要があります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します
2. 「E メール」タブをクリックします。
3. 「編集」をクリックします。
4. 「E メール構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 「Eメールの有効化」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
6. 「Eメールの差出人」フィールドに、Eメールの送信元とする Eメール・アドレスを入力します。

この値は、通常、管理者の Eメール・アドレスに設定します。

7. 「OK」をクリックします。

---

## 販売人設定

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management の構成時に、販売人および販売人詳細の作成、オンボーディング、および変更に必要な設定を構成する必要があります。

販売人についての以下の設定を Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで構成できます。

- 賠償責任補償保険設定
- 単一の商品に対する複数の委嘱の生成
- 資格契約制限
- 雇用前処理
- オンボーディング・キットの取り消しおよび却下の制約
- ログイン設定
- 通貨形式、パーセンテージ形式、および名前形式

### 賠償責任補償保険設定の構成

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで使用可能な賠償責任補償保険会社の設定を構成できます。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「当事者」タブをクリックします。
3. 「当事者構成設定」セクションに移動し、「編集」をクリックします。
4. 「当事者構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。

5. 「保険業者リンク」フィールドに、賠償責任補償保険を提供している保険業者へのリンクを入力します。
6. 「保険業者名」フィールドに、賠償責任補償保険を提供している保険業者の名前を入力します。
7. 「企業名」フィールドに、賠償責任補償保険を提供している保険業者の企業名を入力します。
8. 「OK」をクリックします。

## 単一の商品に対する複数の委嘱の生成の有効化

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management で、アプリケーションの「デフォルト組み合わせ委嘱」設定を有効化することで、生命、変額、健康、資産および災害の各商品に対して複数の委嘱を生成できます。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「当事者」タブをクリックします。
3. 「当事者構成設定」セクションに移動し、「編集」をクリックします。
4. 「当事者構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。

例えば、販売人が LVH 状態の生命、健康、および変額商品の LOA を持っている場合に、その販売人が委嘱を追加するときに「生命」のみを選択すると、3 つの委嘱すべてが自動的に作成されます。委嘱を削除する場合にも同様の処理が適用されます。

上記の例で、「当事者構成インディケーター」が「いいえ」に設定されている場合、「生命」の委嘱のみが作成されます。

5. 「デフォルト組み合わせ委嘱」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

## 資格契約制限の構成

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで、すべての委嘱を販売人レベルで作成する場合、「資格契約制限」インディケーターを「いいえ」に設定できます。

### このタスクについて

デフォルトでは、「資格契約制限」インディケーターは「はい」に設定されています。これにより、本社ユーザーは、販売人レベルと契約レベルのいずれかで委嘱を作成するかを選択できます。このインディケーターを「いいえ」に設定して、すべての委嘱を、指定した販売人契約ではなく販売人にも関連付けるようにすることができます。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「当事者」タブをクリックします。

3. 「当事者構成設定」セクションに移動し、「編集」をクリックします。
4. 「当事者構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 「資格契約制限」ドロップダウン・リストで、「いいえ」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

## 事前雇用の有効化

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management で販売人の雇用前処理を行うには、アプリケーションで雇用前を有効化する必要があります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「当事者」タブをクリックします。
3. 「契約構成設定」セクションに移動し、「編集」をクリックします。
4. 「契約構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 「雇用前の有効化」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

## オンボーディング・キットの取り消しおよび却下の制約の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで、オンボーディング・キットを保留中または非アクティブの状態のままにできる日数に設定できます。これを過ぎると、オンボーディング・キットは取り消しになります。

### このタスクについて

値がゼロに設定されている制約がある場合、Producer Lifecycle and Credential Management はそのタイプのオンボーディング・キットの取り消しを無視します。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「当事者」タブをクリックします。
3. 「契約構成設定」セクションに移動し、「編集」をクリックします。
4. 「契約構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 「オンボーディングのキャンセル - 却下の保留」フィールドに、オンボーディング・キットを保留状態のままにできる日数を入力します。これを過ぎると、オンボーディング・キットは却下されます。
6. 「オンボーディングのキャンセル - キットの完了」フィールドに、ユーザーがオンボーディング・キットを完了する必要がある日数を入力します。これを過ぎると、オンボーディング・キットは取り消しになります。
7. 「オンボーディングのキャンセル - 非アクティブ」フィールドに、オンボーディング・キットを非アクティブ状態のままにできる日数を入力します。これを過ぎると、オンボーディング・キットは取り消しになります。
8. 「OK」をクリックします。

## ログイン設定の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の新規ユーザー作成時に使用可能な認証オプションを設定でき、ユーザーがロックアウトされるまでアプリケーションにログイン試行できる回数を設定することが可能です。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「当事者」タブをクリックします。
3. 「ログイン構成設定」セクションに移動し、「編集」をクリックします。
4. 「ログイン構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 以下のいずれかまたはすべてのドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。

選択項目	説明
PLCM の表示	これは、販売人の作成時にデフォルトの認証方式 (Producer Lifecycle and Credential Management) を表示します。
LDAP の表示	これは、販売人の作成時に認証方式として LDAP を表示します。Producer Lifecycle and Credential Management で使用するための LDAP の構成について詳しくは、45 ページの『LDAP 認証の構成』を参照してください。
クライアント登録の表示	ユーザー ID とパスワードを追加して追跡するクライアント・ポータル登録システムを使用している場合、販売人の追加時に認証方式としてクライアント登録を表示するを選択できます。
NA の表示	これは、新規販売人の作成時に認証オプションとして「NA」を表示します。

6. 「ログイン失敗の最大数」フィールドに、ユーザーによるログインの失敗を許可する最大回数を入力します。この回数を超えると、ユーザーはロックアウトされます。
7. 「OK」をクリックします。

## 通貨形式、パーセンテージ形式、および名前形式の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで使用される通貨形式、パーセンテージ形式、および国別コードを設定できます。

### このタスクについて

クライアント・サイドのサーバーのロケールにより設定される形式をオーバーライドする、通貨およびパーセンテージのカスタム形式を構成できます。

表 2. 通貨およびパーセンテージの構成

フィールド	説明	例
通貨パターン	<p>これは、金額を表すために数値を変換する方法を定義します。このパラメーターの値は、金額に表示する小数点以下の桁数を指定します。</p> <p>変換する数値の小数点以下の桁数が指定された小数点以下の桁数を超える場合、結果のストリングで数値は丸められます。</p> <p>この値がデフォルト値の c のままの場合、通貨形式はクライアント・サイドで設定されたロケールにより定義されます。</p>	<p>クライアント・サイドのロケールが英語 (米国) に設定されており、currencyPattern が c0 に設定されている場合、1234.567 は \$1,235 になります。</p> <p>クライアント・サイドのロケールがドイツ語に設定されており、currencyPattern が c3 に設定されている場合、1234.567 は 1.234,567 € になります。</p>
通貨記号	<p>この値は、ロケールのデフォルト通貨記号を置き換えます。</p>	<p>ロケールがドイツ語 (通貨記号は通貨の数字の後に表示) に設定されていて、currencySymbol が USD に設定されている場合、1.23 は 1,23 USD となります。</p>
パーセンテージ・パターン	<p>これは数値を 100 で乗算し、パーセンテージを表示する方法を定義します。このフィールドの値は、パーセンテージに表示する小数点以下の桁数を指定します。</p> <p>この値がデフォルト値の p のままの場合、パーセンテージの形式はクライアント・サイドで設定されたロケールにより定義されます。</p>	<p>クライアント・サイドのロケールが英語 (米国) に設定されており、percentagePattern が p0 に設定されている場合、0.222 は 22 % になります。</p> <p>クライアント・サイドのロケールがドイツ語に設定されていて、percentagePattern が p3 に設定されている場合、0.22 は 22,000 % になります。</p>

国別コードを構成すると、Producer Lifecycle and Credential Management の各テーブルに、販売人名の形式が設定されます。国を「日本 (JPN)」または「中国 (CHN)」に設定すると、販売人名の姓の後に続けて名が表示されます。また、国が「日本」または「中国」に設定されている場合は、「販売人の詳細」タブで販売人名を追加または編集するときに、「ミドルネーム」フィールドと「接尾部」フィールドが表示されません。その他すべての言語設定では、デフォルトの動作になります。

国別コードを構成すると、販売人の住所を追加するときに使用できるフィールドも設定されます。例えば、国を「カナダ (CAN)」に設定すると、住所を追加または編集するときに、「郡」フィールドおよび「郵便番号」フィールドが表示されるようになります。

## 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します
2. 「当事者」タブをクリックします。
3. 「形式構成設定」セクションまでスクロールダウンし、「編集」をクリックします。
4. 「形式構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 「通貨パターン」を、通貨の小数点以下の桁数を定義する値に設定します。
6. 「通貨記号」を、通貨タイプを定義する値に設定します。
7. 「パーセンテージ・パターン」を、パーセンテージの小数点以下の桁数を定義する値に設定します。
8. 「国別コード」を自国のコードに設定します。
9. 「OK」をクリックします。

## 経歴審査設定の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで使用可能な経歴審査バンダーへのリンクの構成、および自動経歴審査の構成を行うことができます。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「経歴審査」タブをクリックします。
3. 「編集」をクリックします。
4. 「経歴審査構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 以下のオプションを構成できます。

オプション	説明
自動審査インディケーター	この値を「はい」に設定すると、自動経歴審査が構成されて、「経歴審査」タブのドロップダウン・メニューに「自動」オプションが表示され、「経歴審査の状況」フィールドに「保留中の自動承認をパス」オプションが表示されます。
OFAC ファイルの場所	Office of Foreign Assets Control (OFAC) の保存済みインポート・ファイルのファイル・パス。
バンダー・サイト	優先経歴審査バンダーの URL。
OFAC サイト・アドレス	OFAC サイトの URL。
eVerify サイト・アドレス	eVerify サイトの URL。
HR スクリーニング・サイト・アドレス	人事選別サイトの URL。
FINRA ゲートウェイ・サイト・アクセス	Financial Industry Regulatory Authority (FINRA) サイトの URL。
Vector One サイト・アドレス	Vector One サイトの URL。

6. 「OK」をクリックします。

---

## ユーザー定義ワークフローのマッピング

正しく実行するには、すべてのユーザー定義ワークフローを対応する IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management ワークフローにマップする必要があります。

### このタスクについて

Producer Lifecycle and Credential Management リリースには、事前にビルドされた多数のワークフローが付属しています。これらのワークフローのルールは、組織のビジネス・プロセスに合わせて変更できます。

ワークフロー・ルールを変更する場合は、ルールをユーザー定義として識別するために、ルール名に接頭部を追加してください (UD\_initiateIndividualOrSubProducerDRL など)。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「ワークフロー」タブをクリックします。
3. 「追加」をクリックします。
4. 「PLCM ワークフロー ID」ドロップダウン・リストで、作成した新しいユーザー定義ワークフローに対応するワークフローを選択します。
5. 「代替ワークフロー ID」フィールドに、作成したユーザー定義ワークフローの名前を入力します。
6. 「OK」をクリックします。

---

## 文書管理システムとの統合

アプリケーションを介してアップロードされた文書を保管のためにサード・パーティー文書管理システムに送信するように、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management を構成できます。

Producer Lifecycle and Credential Management は、Content Management Interoperability Services (CMIS) と統合することも、他のサード・パーティー文書管理システムと統合することも可能です。

### 文書管理システム設定の構成

文書管理システムに文書を保管するには、最初に IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management の設定を構成する必要があります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「文書ストア」タブをクリックします。
3. 「編集」をクリックします。

- 「文書ストア構成インディケーター」フィールドで「はい」を選択します。
- 「文書ストア・タイプ」フィールドで、使用する文書保管のタイプを選択します。

文書ストア・タイプ	説明
CMIS	Content Management Interoperability Services (CMIS) を使用して Producer Lifecycle and Credential Management でアップロードされた文書を保管する場合、このオプションを選択します。
その他	他の文書管理システムを使用して Producer Lifecycle and Credential Management でアップロードされた文書を保管する場合、このオプションを選択します。

- 「CMIS」を選択した場合、CMIS に接続するための必須フィールドに情報を入力します。
- 「その他」を選択した場合、「文書ストア・インターフェースの実装」フィールドに、他のサード・パーティー文書ストア・システムに文書を保管するために使用する IDocumentStore インターフェースの実装を入力します。

## 操作構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management では、移行、一括変更、および一括オンボーディングの機能を有効にするように設定を構成する必要があります。

### 移行ディレクトリーの構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management で、移行ファイルのインポート元のディレクトリーを構成する必要があります。

#### 手順

- 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
- 「操作」 タブをクリックします。
- 「編集」をクリックします。
- 「操作構成インディケーター」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
- 「移行ディレクトリー」フィールドに、移行フォルダーの場所を入力します。

絶対パス (C:\¥¥plcm¥¥migration など) を指定しない場合、Producer Lifecycle and Credential Management のインストール場所を基準としてフォルダーが作成されます。Microsoft SQL Server データベースは、この移行フォルダーにインポート処理時にアクセスできる必要があります。

- 「OK」をクリックします。

## 一括変更のインポート設定の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management でステージング・テーブル・インポートを実行するためにバッチ・サイズとディレクトリーを構成する必要があります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「操作」 タブをクリックします。
3. 「編集」をクリックします。
4. 「操作構成インディケータ」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 以下の値を構成します。

値	説明
ステージ・データのインポート・ディレクトリー	ステージ・テーブル・データのインポート・ファイルがあるディレクトリー。
ステージ・データのインポート・バッチ・サイズ	ステージ・テーブル・データの一括挿入で使用するバッチ・サイズ。一括挿入を無効にして一度に 1 つずつレコードをデータベースに挿入するには、この値を 0 または -1 に設定します。

6. 「OK」をクリックします。

## IBM Incentive Compensation Management との同期の構成

アップロードを IBM® Producer Lifecycle and Credential Management から IBM® Incentive Compensation Management に同期させるには、ワークスペース・フォルダーを構成する必要があります。

### 手順

1. 「システム操作」 > 「システム構成設定」に移動します。
2. 「操作」 タブをクリックします。
3. 「編集」をクリックします。
4. 「操作構成インディケータ」ドロップダウン・リストで、「はい」を選択します。
5. 「同期ワークスペース・フォルダー」フィールドに、Incentive Compensation Management との同期に使用するフォルダーの名前を入力します。
6. 「OK」をクリックします。



---

## 第 4 章 ワークフローとルールの構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management を実行するために必要なワークフローおよびルールを JBoss Drools Guvnor にインポートし、Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションを処理するように構成する必要があります。

販売人のオンボーディングの開始など、Producer Lifecycle and Credential Management でプロセスを実行するには、ワークフローが必要です。ワークフローにはビジネス・ルールが含まれます。

### 関連タスク:

5 ページの『JBoss jBPM Designer のインストール』

JBoss jBPM Designer は、JBoss Drools Guvnor と統合され、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management のプロセスを追加および編集するために使用されます。

---

## ワークフローの説明

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management リリースの一部として、いくつかのワークフローが組み込まれています。

以下のリストに、Producer Lifecycle and Credential Management リリースに含まれるワークフローの説明を示します。

### **plcm.AgencyTermination**

このワークフローは、権限がある本社ユーザーが、代理店または代理店契約を解約したときに起動されます。このワークフローは、代理店解約を処理し、その代理店に関連するすべてのアクティブな契約を解約して、代理店解約の E メール通知を送信します。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに代理店解約メッセージを送信できます。

### **plcm.CancelOnboardingKit**

このワークフローは、代理店責任者または本社ユーザーが、新規代理店のオンボーディングをキャンセルすることを選択したときに起動されます。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに取り消しメッセージを送信できます。

### **plcm.CompleteContinuingEducation**

このワークフローは、レビューおよび承認のために本社ユーザーにルーティングされる継続教育の更新コース（一般年金の教育や長期介護の教育など）をアクティブな販売人が、送信したときに起動されます。保留となっている販売人がオンボーディング処理中にコースを送信した場合、このワークフローは起動されません。

### **plcm.CompleteEOCoverage**

このワークフローは、レビューおよび承認のために本社ユーザーにルーティングされるエラーズ・アンド・オMISSION・ポリシーの更新をアクティブ

な販売人が送信したときに起動されます。保留となっている販売人がオンボーディング処理中にエラーズ・アンド・オミッション・データを送信した場合、このワークフローは起動されません。

#### **plcm.CompleteOnboardingKit**

このワークフローは、販売人がオンボーディング・キットを送信したときに起動されます。このワークフローは、レビューおよび承認のルーティングを決定し、ワークフロー・タスクを作成して、最初のレビューアーに E メール通知を送信します。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに、保留中の販売人に関するメッセージを送信できます。雇用前機能を使用する場合、経歴審査 Web サービスを呼び出して経歴審査を開始するように、このワークフローが変更されます。

#### **plcm.InitiateOnboardingKit**

このワークフローは、本社ユーザーまたは代理店責任者が、新規販売人または新規販売人契約を作成したときに起動されます。このワークフローは、契約コードおよび販売人コードを割り当て、オンボーディング・キットを組み立てて、販売人にオンボーディング・キットを完了するように通知する E メールおよびアラートを送信します。

#### **plcm.InitiateOnboardingDualContract**

このワークフローは、二重の契約承認が必要な新規契約が作成されたときに起動されます。

#### **plcm.NodeAssignmentChange**

このワークフローは、ノードの割り当てが追加、削除、または更新されるたびに起動されます。

#### **plcm.ProducerEndSuspendLOA**

このワークフローは、本社ユーザーまたは代理店責任者が、中断または休職状態になっていた販売人を再びアクティブにしたときに起動されます。販売人が中断期間中に実動要件を満たしたときに、このワークフローを `manageProducerLifecycle` Web サービスにより起動して自動的に開始できます。このワークフローは、販売人を再びアクティブにし、再アクティブ化についての E メール通知を送信します。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに再アクティブ化のメッセージを送信できます。

#### **plcm.ProducerReinststate**

このワークフローは、解約された販売人を本社ユーザーが復活させたときに起動されます。復活を処理し、復活に関する E メール通知を送信します。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに復活に関するメッセージを送信できます。

#### **plcm.ProducerSuspendLOA**

このワークフローは、本社ユーザーまたは代理店責任者が、販売人を中断した場合、または販売人の休職を開始した場合に起動されます。このワークフローは、`manageProducerLifecycle` Web サービスから起動することもでき、販売人が実動要件を満たさない場合に自動的に開始することができます。このワークフローは、中断あるいは休職を処理し、E メール通知を送信します。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに中断または休職のメッセージを送信できます。

### **plcm.ProducerTermination**

このワークフローは、本社ユーザーまたは代理店責任者が、販売人を解約した場合、または 1 つ以上の販売人契約を解約した場合に起動されます。このワークフローは、manageProducerLifecycle Web サービスから起動することもでき、販売人が実動要件を満たさない場合に自動的に開始することができます。このワークフローは解約を処理し、E メール通知を送信します。このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに解約のメッセージを送信できます。

### **plcm.ReviewContinuingEducation**

このワークフローは、アクティブな販売人により送信された継続教育の更新またはコースが本社ユーザーにより承認されるときに起動されます。このワークフローは、コースの承認の記録、販売人の継続教育の状況および資格サマリーの更新、および却下の E メール通知の販売人への送信を実行します。

### **plcm.ReviewDualContractRequest**

このワークフローは、ユーザーが二重契約タスク（「二重契約要求のレビュー (Review Dual Contract Request)」または「新規代理店への転送 (Transfer to New Agency)」) のいずれかからアクションを送信するたびに起動されます。

### **plcm.ReviewEOCoverage**

このワークフローは、アクティブな販売人が送信したエラーズ・アンド・オMISSION補償範囲の更新を本社ユーザーが承認するときに起動されます。エラーズ・アンド・オMISSION補償範囲の承認の記録、および却下の Eメールの販売人への送信を実行します。

### **plcm.ReviewOnboardingKit**

このワークフローは、代理店責任者または本社ユーザーがオンボーディング・キットのレビューを完了したときに起動されます。オンボーディング・キットの状況を更新します。

- オンボーディング・キットが承認された場合、このワークフローはオンボーディング・キットの次のレビューアーを判別するルールを実行し、ワークフロー・タスクを生成して、レビューアーに E メールを送信します。追加のレビューアーが存在しない場合、ワークフローはオンボーディング・キットをアクティブにします。
- 却下の保留になった場合、このワークフローは、信用度情報に基づいて却下に不服を申し立てる手順が含まれた E メール通知を送信します。これは Fair Credit Reporting Act のコンプライアンスのために必要となるものです。
- 却下された場合、このワークフローは販売人に E メール通知を送信します。
- キャンセルされた場合、このワークフローは E メール通知を送信します。
- 再提出用に返却された場合、このワークフローはアラートを作成し、オンボーディング・キットを再提出するように販売人に E メール通知を送信します。

このワークフローを変更して、リアルタイム通知を必要とする下流のシステムに、アクティブ化、却下、またはキャンセルの通知を送信できます。また、このワークフローを変更して、代理店責任者がレビューを完了した後、経歴審査を開始するための経歴審査ベンダー Web サービスを呼び出すこともできます。

#### **plcm.backgroundCheckResults**

このワークフローは、外部ベンダーからファイルで受け取った経歴審査の結果ごとに起動されます。本社のアナリストに結果を受け取ったことの通知を送信し、アナリストが結果を表示できるようにします。

#### **plcm.eAcknowledgment**

このワークフローは、アクティブな契約の契約変更があった場合に起動されます。追加の電子受領通知に署名する必要があるかどうかを判別し、契約変更に対して電子的に確認する必要がある当事者に対してアラートおよび E メール通知を生成します。

---

## ルールのインポート

JBoss Drools Guvnor および jBPM Designer をインストールした後、Drools Guvnor でパッケージを作成する必要があります。これは、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management のワークフロー・ルールをインポートするために必要です。

### 始める前に

JBoss Drools Guvnor、JBoss jBPM Designer、および Producer Lifecycle and Credential Management がインストール済みであることが必要です。

### 手順

1. JBoss Drools Guvnor を開きます。
2. 「ナレッジ・ベース (Knowledge Bases)」 セクションで、「新規作成 (Create New)」 > 「新規パッケージ (New Package)」 をクリックします。
3. 「drl ファイルからインポート (Import from drl file)」 オプションを選択します。
4. 「参照」 をクリックし、インストール時に Producer Lifecycle and Credential Management を保存した場所に移動します。

デフォルトでは、次のディレクトリーにあります。C:\¥IBM PLCM¥guvnor-imports¥rules

5. PLCMRules.drl ファイルを選択します。
6. 「インポート」 をクリックします。

デフォルトでは、これにより、Producer Lifecycle and Credential Management ワークフローに必要なすべてのルールを含む plcmPkg という名前のパッケージが作成されます。

7. 「ファイル」 > 「変更の保存」 をクリックします。

## 次のタスク

Producer Lifecycle and Credential Management のワークフローで使用されるビジネス・オブジェクトを含むファイルをアップロードする必要があります。

---

## ワークフロー・オブジェクトのインポート

JBoss Drools Guvnor を使用して、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management ワークフローに必要なオブジェクトをアップロードします。

### 始める前に

JBoss Drools Guvnor、JBoss jBPM Designer、および Producer Lifecycle and Credential Management がインストール済みであることが必要です。

### 手順

1. JBoss Drools Guvnor を開きます。
2. 「ナレッジ・ベース (Knowledge Bases)」セクションで、「新規作成 (Create New)」 > 「POJO モデル jar のアップロード (Upload POJO Model jar)」をクリックします。
3. 「新規作成 (Create new)」オプションは選択状態のままにします。
4. モデルに名前を付けます。
5. 「パッケージで作成 (Create in Package)」オプションは選択状態のままにします。
6. 「OK」をクリックします。
7. 「参照」をクリックし、インストール・フォルダー内にある PLCMObjects.jar ファイルを選択します。

デフォルトでは、次のディレクトリーにあります。C:\Program Files\IBM\PLCM\guvnor-imports

8. 「アップロード」をクリックします。

JAR ファイル内のオブジェクトが Drools Guvnor にインポートされます。

9. 「ファイル」 > 「保存して閉じる」をクリックします。
10. 「チェックイン」をクリックします。

## 次のタスク

Producer Lifecycle and Credential Management で使用されるプロセスを含むファイルをインポートする必要があります。

---

## プロセスのインポート

JBoss Drools Guvnor を使用して、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management に必要なプロセスをアップロードします。

## 始める前に

JBoss Drools Guvnor、JBoss jBPM Designer、および Producer Lifecycle and Credential Management をインストールする必要があります。

### 手順

1. JBoss Drools Guvnor を開きます。
2. 「ナレッジ・ベース (Knowledge Bases)」 セクションで、「新規作成 (Create New)」 > 「新規 BPMN2 プロセス (New BPMN2 Process)」 をクリックします。
3. 「新規作成 (Create new)」 オプションは選択状態のままにします。
4. プロセスに名前を付けます (インポートするワークフローの名前など)。
5. 「パッケージで作成 (Create in Package)」 オプションは選択状態のままにします。
6. 作成したパッケージがリストで選択されていることを確認します。
7. 「OK」 をクリックします。

これにより、空のプロセスが作成されます。

8. 「ツール (Tools)」 > 「BPMN2 からインポート (Import from BPMN2)」 をクリックします。
9. 「参照」 をクリックし、Producer Lifecycle and Credential Management インストール・フォルダーにある .bpmn2 ファイルを選択します。

デフォルトでは、このファイルは次のディレクトリーにあります。C:\Program Files\IBM\PLCM\guvnor-imports\workflows。プロセス名に一致するファイルを選択する必要があります。

10. 「インポート」 をクリックします。
11. 「ファイル (File)」 > 「保存して閉じる (Save and close)」 をクリックします。
12. 「チェックイン」 をクリックします。
13. 同じ方法でフォルダー内の各プロセスをインポートします。

---

## ワークフローの構成

JBoss Drools Guvnor を使用してパッケージを作成して、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management がアクセスできるスナップショットを作成します。

### 始める前に

「編集」 タブで、パッケージへの変更を保存し、「構成の検証 (Validate configuration)」 ボタンをクリックする必要があります。

### 手順

1. JBoss Drools Guvnor を開きます。
2. Producer Lifecycle and Credential Management ルールを含むパッケージを開きます。
3. 「ファイル」 > 「保存」 をクリックします。

4. 「編集」タブで「パッケージの作成 (Build package)」をクリックします。
5. 「パッケージ・バイナリーの URL (URL for package binary)」リンクをメモします。
6. application.conf ファイルに移動します。

デフォルトでは、以下のディレクトリーにあります。C:\Program Files\IBM\PLCM\plcmService\conf

7. Drools configuration セクションで、ステップ 4 でメモした「パッケージ・バイナリーの URL (URL for package binary)」リンクに一致するように以下の値を編集します。

```
rules.packageURL="http://localhost:8080/drools-guvnor/rest/packages/plcmPkg/binary"
```

8. application.conf ファイルを保存します。
9. Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを再始動します。

---

## ルールの再ロード

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management でルールとワークフローを再ロードできます。

### このタスクについて

ルールの再ロード時に、Guvnor にインポートされている JAR ファイルが読み込まれ、Producer Lifecycle and Credential Management にインポートされます。ユーザーがルールへのアクセスを要求している間にルールが再ロード中の場合、再ロードが完了するまで古いルールが実行されます。

このタスクを実行するには適切なアクセス権が必要です。また、設定を application.conf ファイルで構成する必要があります。ルールを再ロードするための設定の構成について詳しくは、8 ページの『JBoss Drools Guvnor へのアクセス権限の構成』を参照してください。

注: plcmObjects.jar ファイルを Guvnor にアップロードする際に、そのファイルの名前を変更しないでください。このファイルの名前を変更した場合、ルールを初期化できません。

### 手順

「システム操作」 > 「ルールの再ロード」に移動します。



---

## 第 5 章 認証とサインオン

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の認証用に Open SSO または LDAP を構成する際には、通信および認証のさまざまなオプションが使用できます。

---

### シングル・サインオン構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management は、ID プロバイダーを通じたシングル・サインオン認証をサポートします。シングル・サインオンが構成されると、ユーザーは 1 つのシステムにログインして、複数のシステムへのアクセスを取得できます。

シングル・サインオン (SSO) が構成されている場合に Producer Lifecycle and Credential Management にログインしていないと、アプリケーションは、ユーザーが ID プロバイダー (IdP) にログインしているかをチェックします。IdP にログインしていない場合、ユーザーはログインするために IdP によって SSO ページにリダイレクトされます。

SSO プロバイダーにログインしている場合は、即座にユーザーのユーザー名が Producer Lifecycle and Credential Management に照合してチェックされます。ユーザー名が一致すると、ログインを要求されずに Producer Lifecycle and Credential Management へのアクセス権限が付与されます。

ユーザーが Producer Lifecycle and Credential Management からログアウトすると、ログアウト要求が IdP に送信され、それによってアプリケーションからログアウトされて Producer Lifecycle and Credential Management セッションが無効になります。また、これにより、SSO システムを使用してログインした他のどのアプリケーションからもログアウトされます。

### 独自の鍵ストアの生成と抽出

IdP と IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の間の通信を暗号化する必要がある場合、鍵ストアを作成し、Producer Lifecycle and Credential Management が IdP にアクセスするための秘密鍵と公開鍵を生成する必要があります。

#### 始める前に

鍵ストアと、Producer Lifecycle and Credential Management が IdP への要求を暗号化するために使用できる秘密鍵と公開鍵を作成する必要があります。鍵ストアは、任意の標準 JDK ディストリビューションに付属している Java Keytool ユーティリティを使用して作成できます。

#### 手順

1. 管理者権限を使用してコマンド・プロンプト・ウィンドウを開き、Java Keytool ユーティリティがあるディレクトリーに移動します。

例えば、以下のテキストを入力します。cd C:\Program Files\Java\jre1.8\bin

2. 鍵ストア・ファイルおよび公開鍵と秘密鍵を生成するために、コマンド・プロンプト・ウィンドウに以下のコマンドを入力します。keytool -genkeypair -alias <alias-name> -keypass <your-password> -keystore <keystore-file>

例えば、keytool -genkeyair -alias ibm-plcm -keypass changeit -keystore ibmplcm-keys.jks と入力します

鍵ストア・ファイルが、ステップ 1 で入力したのと同じディレクトリーに保存されます。

3. IdP が Producer Lifecycle and Credential Management からの要求を暗号化解除するために使用する公開鍵を抽出するために、コマンド・プロンプト・ウィンドウに以下のコマンドを入力します。keytool -export -keystore <keystore-file> -alias <alias-name> -file <public-key-file>

例えば、keytool -export -keystore ibmplcm-keys.jks -alias ibm-plcm -file ibm-plcm-public.cert と入力します

公開鍵が、ステップ 1 で入力したのと同じディレクトリーに保存されます。

## シングル・サインオンの構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで使用するために、Security Assertion Markup Language (SAML) を介したシングル・サインオンを構成できます。

### 始める前に

シングル・サインオンは、サービス・プロバイダー (Producer Lifecycle and Credential Management) により開始されます。Siteminder、PingFederate、OpenAM などの ID プロバイダーをインストールしておく必要があります。デジタル署名を生成するために鍵ストアが必要です。鍵ストアをセットアップし、ID プロバイダー (IdP) に対してそれを構成する必要があります。Open SSO には、テスト用にデフォルトのテスト鍵が用意されています。この鍵は、実動環境では使用しないでください。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:\%IBM PLCM%\plcm\service\%conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。Producer Lifecycle and Credential Management を別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. #SAML Settings セクションで、以下の値を構成します。

パラメーター	説明
auth.useSAML	値を <b>true</b> に設定します。

パラメーター	説明
<b>auth.baseUrl</b>	<p>Producer Lifecycle and Credential Management にアクセスするために使用する URL をポイントするように値を構成します。IdP が、このリンクに IdP サーバーからアクセス可能であることが必要です。</p> <p><b>注:</b> OpenAM では、Web リソースを保護する際に完全修飾ドメイン・ネームを使用する必要があります。</p>
<b>auth.failUrl</b>	<p>SAML ログイン試行が失敗した後にユーザーをログイン・ページにリダイレクトするには、この値を構成します</p> <p>このパラメーターは、SAML ID プロバイダーで正常に認証された SAML ユーザーが Producer Lifecycle and Credential Management にアクセスしようとしたときに使用されます。一致するセキュリティ・ユーザーが Producer Lifecycle and Credential Management に存在しない場合、そのユーザーは <b>auth.failUrl</b> 値に設定された URL にリダイレクトされます。このパラメーターに値が構成されていない場合、ユーザーは Producer Lifecycle and Credential Management 失敗ログイン・ページにリダイレクトされます。このページには、SAML SSO システムからログアウトするためのリンクがあります。</p>
<b>auth.idp.type</b>	この値を適切な IdP 名 (「siteminder」や「openam」など) に設定します。この値は、監査テーブルのためのみに使用されます。
<b>auth.idp.url</b>	この値を、IdP メタデータ・リンクをポイントするように構成します。
<b>auth.idp.params.id</b>	この設定は変更しないでください。
<b>auth.sp.jks.path</b>	この値を、ibmplcm-keys.jks ファイルが配置されているディレクトリーを指すように構成します。詳しくは、41 ページの『独自の鍵ストアの生成と抽出』を参照してください。
<b>auth.sp.jks.pw</b>	この値を、鍵ストアのパスワードに設定します。詳しくは、41 ページの『独自の鍵ストアの生成と抽出』を参照してください。
<b>auth.sp.jks.entryid</b>	この値は ibm-plcm に設定されており、変更しないでください。
<b>auth.sp.jks.entrypw</b>	この値を、鍵ストアのパスワードに設定します。詳しくは、41 ページの『独自の鍵ストアの生成と抽出』を参照してください。

パラメーター	説明
auth.timeskew	この値を、IdP からの有効期限をチェックするための最大許容時間スキューに設定します。この値は控えめに設定してください。

4. ファイルを保存します。

## 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを始動する必要があります。

### 関連タスク:

『ID プロバイダー用のアクセスのセットアップ』

ID プロバイダー (IdP) 用の IBM® Producer Lifecycle and Credential Management へのアクセスをセットアップするには、IdP にインポートするメタデータ・エクスポート・ファイルを生成する必要があります。

## ID プロバイダー用のアクセスのセットアップ

ID プロバイダー (IdP) 用の IBM® Producer Lifecycle and Credential Management へのアクセスをセットアップするには、IdP にインポートするメタデータ・エクスポート・ファイルを生成する必要があります。

### 手順

- admin ユーザーとして Producer Lifecycle and Credential Management にログインする。
- 以下のテキストをブラウザのアドレス・フィールドに入力して、メタデータ・エクスポート・ファイルを生成します。 `http://<<PLCM URL>>/PLCM/sso/metadata`
- IdP チームに以下の情報を提供します。
  - 生成されたメタデータ・エクスポート・ファイル。このファイルは IdP ツールにインポートされます。
  - ibm-plcm-public.cert 公開鍵。これは、Producer Lifecycle and Credential Management と IdP の間の通信を暗号化する場合に必要になります。この公開鍵は IdP システムにインポートされます。
- IdP チームは以下のステップを実行します。
  - Producer Lifecycle and Credential Management メタデータ・エクスポート・ファイルを IdP ツールにインポートします。これにより、IdP が Producer Lifecycle and Credential Management にアクセスするために必要なものがすべてセットアップされ、Producer Lifecycle and Credential Management が IdP にアクセスするために使用できるアダプターが作成されます。
  - Producer Lifecycle and Credential Management が資格情報を検証するために使用できる IdP 内に作成されたアダプターの URL を指定します。
  - IdP で SAML ヘッダーを暗号化する場合、SAML ヘッダーを暗号化解除するために Producer Lifecycle and Credential Management が使用できる公開鍵が提供されます。

## 次のタスク

application.conf ファイルで、**auth.idp.url** の値を、Producer Lifecycle and Credential Management 用に IdP で作成されたアダプターの URL に設定します。変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management サービスを再始動する必要があります。

### 関連タスク:

42 ページの『シングル・サインオンの構成』

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションで使用するために、Security Assertion Markup Language (SAML) を介したシングル・サインオンを構成できます。

## 鍵ストアへの公開鍵のインポート

SAML ヘッダーが IdP により暗号化される場合、IdP プロバイダーの公開鍵を IBM® Producer Lifecycle and Credential Management の鍵ストアにインポートする必要があります。これは、Producer Lifecycle and Credential Management が SAML ヘッダーを暗号化解除するために使用されます。

### 手順

1. 管理者権限を使用してコマンド・プロンプト・ウィンドウを開き、Java Keytool ユーティリティがあるディレクトリーに移動します。

例えば、以下のディレクトリーに移動します。C:%Program Files%Java%jre1.8%bin

2. コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、IdP から鍵ストアに公開鍵をインポートします。keytool -importcert -alias <alias-name> -file <public-key-file> -keystore <keystore-file>

例えば、Siteminder チームにより siteminder-public.cert というファイルが提供された場合、keytool -importcert -alias siteminder-public -file siteminder-public.cert -keystore ibmplcm-keys.jks と入力します。

---

## LDAP 認証の構成

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management は LDAP を使用してアプリケーションへのアクセスを定義できます。システムは、ユーザー ID およびパスワードを使用して LDAP を呼び出し、認証が成功した場合にメッセージを受け取ります。

### 手順

1. 次の場所に移動します。C:%Program Files%IBM PLCM%plcm%plcm%service%conf

**重要:** これはデフォルトの場所です。アプリケーションを別の場所にインストールした場合、ファイル・パスは異なります。

2. application.conf ファイルを開きます。
3. LDAP configuration セクションで、以下の値を編集します。

パラメーター	説明
<b>ldap.server</b>	LDAP サーバーの場所。
<b>ldap.domain</b>	LDAP サーバーのドメイン。
<b>ldap.port</b>	LDAP サーバーが実行しているポート。

4. ファイルを保存します。

### 次のタスク

変更を有効にするために、Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスを再始動する必要があります。

---

## 第 6 章 アップグレード

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management アプリケーションを最新機能で更新できます。

以下のステップを実行してアプリケーションをアップグレードする必要があります。

1. データベースをバックアップします。
2. application.conf ファイルおよび wrapper.conf ファイルを保存します。
3. Model Upgrader ツールを実行してデータベースを更新します。
4. 前の Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスをアンインストールします。
5. 最新の Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスをインストールします。

---

### Microsoft SQL Server データベースのバックアップおよび復元

データベース・バックアップにより、IBM® Producer Lifecycle and Credential Management データベースに含まれるすべてのデータが複製され、データベースの完全コピーが作成されます。

その後、復元コマンドを使用して 1 ステップでデータベース全体を再作成できます。復元されたデータベースは、バックアップが完了した時点のデータベースと完全に一致します。

#### データベースのバックアップ

Microsoft SQL Server Enterprise Manager を使用して IBM® Producer Lifecycle and Credential Management データベースをバックアップできます。

##### 手順

1. Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. 「ツール」 > 「データベースのバックアップ」をクリックします。
3. 次のいずれかのバックアップ・タイプを選択します。

##### 完全バックアップ (Complete backup)

データベースのフルバックアップを作成します。ほとんどの場合、バックアップ・ストラテジーはデータベースのフルバックアップで開始する必要があります。

##### 差分バックアップ (Differential backup)

直近のフルバックアップ以降にデータベースに対して行われたすべての変更を格納します。

4. バックアップ・ファイルの宛先は編集できます。

デフォルトでは、バックアップ・ファイルは次の場所に保管されます:  
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL\BACKUP\.

**ヒント:** バックアップの作成中、データベースはオンラインのままにすることができ、ユーザーはデータベースにアクセスできます。

## データベース・バックアップの復元

バックアップ・ファイルでは、Microsoft SQL Server により、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management データベースで使用されるファイルの名前および場所が保管されます。データベースの復元後、SQL Server は必要なすべてのファイルを再作成し、バックアップが終了した時点までデータベースが復元されます。

### 手順

1. Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. 「ツール」 > 「データベースの復元」をクリックします。

「データベースとして復元 (Restore as Database)」フィールドは、新しく復元するデータベースの名前です。この名前は、元の (バックアップした) データベースの名前と同じにする必要ありません。

3. 復元パラメーターを定義するには、元のデータベース名およびリストアする保管バックアップを選択します。

## バックアップおよび復元を使用したサーバー間でのデータベースの転送

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management データベースのバックアップを新しいサーバーで復元できます。これを行うには、データベースのバックアップを作成し、それを、復元を実行するサーバーがアクセスできる場所に保存します。

### 手順

1. データベースを転送する先のサーバーで、Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. 「ツール」 > 「データベースの復元」をクリックします。
3. 「データベースとして復元 (Restore as database)」フィールドに、復元するデータベースの名前を入力します。
4. 「デバイスから (From device)」オプションを選択します。
5. 「ファイル名」を選択し、バックアップ・ファイルの場所を入力します。

---

## Java 8 でのアップグレード

ご使用のコンピューター上に Java 7 と Java 8 の両方がインストールされている場合は、upgrader.jar ファイルが Java 8 に関連付けられていることを確認してから、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management データベースをアップグレードしてください。

## このタスクについて

upgrader.jar ファイルは Java 8 でコンパイルされており、Java 7 で実行できません。両方がコンピューターにインストールされている場合は、コマンド・ラインから upgrader.jar ファイルを実行するか、ご使用の Java 8 インストール済み環境に upgrader.jar を関連付けることができます。

### 手順

1. コマンド・ラインから Model Upgrader ツールを実行するには、最初に **java -version** コマンドを入力して Java のバージョンを確認します。次に、以下のいずれかのステップを実行します。
  - Java のバージョンが 1.8 の場合、次のコマンドを入力して Model Upgrader ツールを実行できます。**java -jar "upgrader.jar のパス"**
  - Java のバージョンが 1.7 の場合、次のコマンドを入力して Model Upgrader ツールを実行できます。**"C:¥Program Files¥Java¥jre1.8.0\_66¥bin¥javaw.exe" -jar "upgrader.jar のパス"**
2. upgrader.jar ファイルをダブルクリックして Model Upgrader ツールを実行できるようにするには、ご使用の Java 8 インストール済み環境をポイントするように以下のレジストリー・キーを設定する必要があります。
  - HKEY\_CLASSES\_ROOT¥jarfile¥shell¥open¥command
  - HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Classes¥jarfile¥shell¥open¥command

---

## データベースのアップグレード

Model Upgrader ツールを使用して IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management データベースをアップグレードし、アプリケーションのアップグレード済みバージョンとの互換性を維持します。

### このタスクについて

データベースとサービスが Producer Lifecycle and Credential Management の同じバージョンで実行されていない場合、アップグレードが必要であることを示すメッセージがログイン画面に表示されます。

### 手順

1. リリース・フォルダーで、Upgrader.jar ファイルをダブルクリックします。
2. 「データベース URL (Database URL)」フィールドに、アップグレードするデータベースを含むデータベース・サーバーの URL を入力します。
3. 「スキーマ名 (Schema Name)」フィールドに、接続先のデータベースのタイプを入力します。
4. 「データベース名 (Database Name)」フィールドに、アップグレードするデータベースの名前を入力します。
5. 「ユーザー名」フィールドおよび「パスワード」フィールドに、データベースを変更する権限を持つユーザーのログイン資格情報を入力します。
6. 「接続」をクリックします。

7. アップグレードが失敗した場合に、最後の正常なアップグレード・バージョンにロールバックするには、「失敗時にすべてのアップグレードをロールバック (Roll back all upgrade on failure)」チェック・ボックスを選択します。
8. 「アップグレード」をクリックします。

---

## アプリケーションのアップグレード

IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスの新しいバージョンをインストールして、アプリケーションをアップグレードする必要があります。

### 始める前に

uninstallService.bat ファイルを実行します。デフォルトでは、次のディレクトリにあります。C:\Program Files\IBM PLCM\plcm\service\service\_installer

### 手順

1. 新しい Producer Lifecycle and Credential Management Windows サービスをインストールします。
2. 前のバージョンの保存済みファイルに一致するように application.conf ファイルおよび wrapper.conf ファイルを編集します。

#### 関連概念:

7 ページの『第 2 章 サービスの構成』

アプリケーションを開く前に、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management サービスがデータベースおよび Guvnor をポイントするように構成する必要があります。

#### 関連タスク:

5 ページの『IBM Producer Lifecycle and Credential Management ソフトウェアのインストール』

必要なソフトウェアをインストールし、構成した後、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management をインストールできます。

## 付録. アクセシビリティ機能

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management には、身体に障害を持つユーザーがプロダクトを使用できるようにサポートするアクセシビリティ機能が備わっています。

### キーボード・ショートカット

IBM® Producer Lifecycle and Credential Management には、製品をナビゲートしたり、タスクを行ったりするのに役立つキーボード・ショートカットがあります。

以下のキーボード・ショートカットは、米国規格のキーボードに基づいています。

表 3. 一般的なキーボード・ショートカット

適用対象	アクション	ショートカット・キー
全般	アクティブなコマンド・ボタンのコマンドを実行します。	Enter
全般	タブ・インデックス順に、次の項目に順方向に移動します。最後のタブ・インデックスに到達すると、最初のタブ・インデックスに循環します。	Tab
全般	タブ・インデックス順に、前の項目に逆方向に移動します。最初のタブ・インデックスに到達すると、最後のタブ・インデックスに循環します。	Shift+Tab
チェック・ボックス	チェック・ボックスを選択またはクリアします。	スペース・バー
メニュー	メニューを下方方向に移動し、メニュー項目を選択します。	下矢印、次に Enter
メニュー	メニューを上方方向に移動し、メニュー項目を選択します。	上矢印、次に Enter
スクロール	スクロールダウンします。	下矢印
スクロール	スクロールアップします。	上矢印
ズーム	ズームインします。	Ctrl と +、または Ctrl+マウス・ホイール・アップ
ズーム	ズームアウトします。	Ctrl と -、または Ctrl+マウス・ホイール・ダウン
ズーム	デフォルトのズーム・レベルに戻ります。	Ctrl+0
ナビゲーション	現行ページを再ロードします。	F5
ナビゲーション	前に開いたページに逆方向に移動します。	Alt+左矢印、Backspace
ナビゲーション	前に開いたページに順方向に移動します。	Alt+右矢印、Shift+Backspace
ナビゲーション	ページのロードを停止します。	Escape

表 3. 一般的なキーボード・ショートカット (続き)

適用対象	アクション	ショートカット・キー
検索	現行ページで検索を実行するために検索ボックスを開きます。	Ctrl+F、F3
検索	現行ページで検索テキストの次の一致を検索します。	Ctrl+G、F3
検索	ページで検索テキストの前の一致を検索します。	Ctrl+Shift+G、Shift+F3

---

## IBM とアクセシビリティ

IBM で行っているアクセシビリティに関する活動について詳しくは、IBM アクセシビリティ・センターを参照してください。

IBM アクセシビリティ・センター (<http://www.ibm.com/able>) はオンラインで利用できます。

---

## 特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group  
Attention: Licensing  
3755 Riverside Dr.  
Ottawa, ON  
K1V 1B7  
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

この「ソフトウェア・オフファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



---

## 用語集

この用語集には、IBM<sup>®</sup> Producer Lifecycle and Credential Management ソフトウェアおよび製品の用語とその定義が記載されています。

この用語集では、以下の相互参照を使用します。

- 「～を参照」 は、当該用語から、優先的に使用される同義語を参照します。または、頭字語や省略語から、定義が示されている完全な形式の用語を参照します。
- 「～も参照」 は、関連する用語または対比する用語を示しています。

他の用語および定義については、IBM Terminology Web サイト (新規ウィンドウで開きます) を参照してください。

---

### A

#### 委嘱 (appointment)

国内で、指定された保険業者の商品を販売またはそのサービスを提供する権限。

#### 認可 (authorization)

ユーザー、システム、またはプロセスに、オブジェクト、リソース、または機能への完全なアクセス権限あるいは制限されたアクセス権限を付与するプロセス。

---

### C

#### 企業販売人 (corporate producer)

保険業者の商品の販売契約を結んでいる外部企業。

#### 資格 (credential)

保険業者または政府の監督機関が保険商品の販売に対して要件とするコース、証明書、または規制上の免許。

---

### D

#### データベース (DB) (database (DB))

1 つ以上のアプリケーションに供給するためにまとめて保管される、相互に関連する、または独立したデータ項目の集合。

**DB** 「データベース (database)」を参照。

---

### H

#### 階層 (hierarchy)

ツリー構造に編成された一連のエンティティ。各エンティティ (ルートを除く) には、1 つ以上の親エンタリーと任意の数の子エンタリーがある。

---

### I

#### 個人販売人 (individual producer)

保険業者の商品の販売契約を結んでいる個人のブローカー、または保険業者の商品の販売を担当する保険業者の従業員。

---

### L

#### 免許 (license)

個人に対し、国内での保険商品の販売を許可する認可証明書。

#### 代理権種目 (LOA) (line of authority (LOA))

免許に基づいて販売人が販売できる保険商品の範囲。

**LOA** 「代理権種目 (line of authority)」を参照。

---

### N

#### ノード (node)

ツリー内の任意の要素。

---

### O

#### オンボーディング (onboarding)

新規従業員を配備し、これらの従業員を社会的に組織に統合する手法。

#### オンボーディング・キット (onboarding kit)

保険業者と契約するために、新規従業員が完了する必要があるフォーム。

---

## P

### パラメーター (parm) (parameter (parm))

関数、コマンド、またはプログラムに、入力として渡されるか、またはアクションを制御するために渡される、値または参照。値は、ユーザーまたは別のプログラムやプロセスによって提供される。

**parm** 「パラメーター (parameter)」を参照。

### 販売人 (producer)

保険業者の商品を販売する個人または組織。

---

## S

### 従属販売人 (sub-producer)

保険業者の商品の販売契約を結んでいる外部企業の従業員。

---

## W

**WAR** 「Web アーカイブ (web archive)」を参照。

### Web アーカイブ (WAR) (web archive (WAR))

Java EE 標準で定義された、Web アプリケーションをインストールして実行するために必要なすべてのリソースを単一のファイルに保管する圧縮ファイル形式。

### ワークフロー (workflow)

企業のビジネス・プロセスに従って行われる一連のアクティビティ。

# 索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

### アップグレード

- 概要 47
- データベース 49
- プロセス 50

### アラート

- NIPR 用のセットアップ 20

### 暗号化リンク

- 構成 14

### 移行

- エクスポート・ファイルの区切り文字の構成 11
- ディレクトリーの構成 30

### 一括変更のインポート

- 設定の構成 31

### インストール

- 概要 1
- サービス 16
- 前提条件 1
- データベース 3
- ファイル 6
- Java 2
- JBoss Drools Guvnor 4
- JBoss jBPM Designer 5
- Producer Lifecycle and Credential Management 6

### 永続生成ヒープ 15

### オンボーディング・キット

- 却下制約の構成 25
- 取り消し制約の構成 25

## [カ行]

### 鍵ストア

- 公開鍵のインポート 45
- 生成 41

### 経歴審査

- ベンダーの構成 28
- ワークフローからの呼び出し 33

### 権限

- データベース 4

### 言語

- 構成 9
- 販売人名の形式の構成 26

### 検証

- 構成 38

### 構成

- 一括変更のインポート設定 31
- オンボーディング・キットの制約 25
- 経歴審査 28
- 言語 9
- 雇用前処理 25
- 資格契約制限 24
- シングル・サインオン 42
- タイム・ゾーン 15
- 単一の商品に対する複数の委嘱 24
- 通貨 26
- データベース 7
- パーセンテージ 26
- 賠償責任補償保険 23
- 販売人設定 23
- 販売人名の形式 26
- メール設定 10, 23
- ユーザー定義ワークフロー 29
- ルール 33
- ログイン設定 26
- ワークフロー 33, 38
- Cookie 名 13
- IBM Incentive Compensation Management の同期 31
- IdP 44
- JBoss Drools Guvnor 8
- LDAP 45
- SSL 14
- Web サービス 7
- 雇用前販売人  
有効化 25

## [サ行]

### サーバー

- データベースの転送 48

### サービス

- 参照： Web サービス

### サインオン 41

### システム構成設定

- 概要 19
- バナーのカスタマイズ 19
- DTCC 22
- FINRA 21
- NIPR 20

### 支払い

- NIPR 20

### シングル・サインオン 41

- 鍵ストアの生成 41
- 公開鍵のインポート 45
- 構成 42

前提条件

概要 1

プリインストール・チェックリスト 1

操作

構成 30

## [タ行]

単一の商品に対する複数の委嘱

有効化 24

通貨

構成 26

データベース

アクセス権限の構成 7

アップグレード 49

インストール 3

権限 4

サーバー間での転送 48

作成 4

バックアップ 47

バックアップの復元 48

復元 47

## [ナ行]

認証 41

タイプの構成 26

## [ハ行]

パーセンテージ

構成 26

賠償責任補償保険

構成 23

バックアップ

データベース 47

データベースでの復元 48

バナー

カスタマイズ 19

販売人

設定の構成 23

ビジネス・ルール

インストール 4

復元

データベース 47

プロセス

インストール 5

JBoss Drools Guvnor へのルールのインポート 38

文書管理システム

設定の構成 29

統合 29

## [マ行]

メール設定

構成 10, 23

メモリー

スペースの増大 15

## [ヤ行]

用語集 57

## [ラ行]

ライセンス・メトリック

解説 13

詳細の構成 12

追跡 12

ルール

構成 33

再ロード 39

定義の構成 8

例外ログ

表示 17

ログイン 17

設定の構成 26

## [ワ行]

ワークフロー

インストール 4

構成 8, 33, 38

説明 33

JBoss Drools Guvnor へのオブジェクトのインポート 37

JBoss Drools Guvnor へのルールのインポート 36

ワークフロー・ルール

ユーザー定義のマッピング 29

## A

application.conf ファイル 50

## C

CMIS

設定の構成 29

統合 29

## D

Depository Trust & Clearing Corporation

参照: DTCC

DTCC

構成設定の追加 22

## F

Financial Industry Regulatory Authority

参照：FINRA

FINRA

構成設定の追加 21

## H

HTTP

無効化 15

## I

IBM Incentive Compensation Management

同期の構成 31

IBM License Metric Tool

統合 13

SLMT ファイル

解説 13

IBM PLCM Web サービス

インストール 16

ID プロバイダー

参照：IdP

IdP

アクセスのセットアップ 44

## J

Java 8

インストール 2

JBoss Drools Guvnor

アクセス権限の構成 8

インストール 4

概要 1

プロセスのインポート 38

ルールのインポート 36

ワークフローの構成 38

ワークフロー・オブジェクトのインポート 37

JBoss jBPM Designer

インストール 5

概要 1

## L

LDAP

構成 45

Lightweight Directory Access Protocol

参照：LDAP

## M

Microsoft SQL Server

インストール 3

権限 4

データベース・バックアップ 47

## N

National Insurance Producer Registry

参照：NIPR

NIPR

アラートのセットアップ 20

構成設定の追加 20

## S

Secure Sockets Layer

参照：SSL

SSL

構成 14

HTTP プロトコルの無効化 15

## U

uninstallService.bat ファイル 50

## W

WAR ファイル

概要 1

JBoss Drools Guvnor 4

JBoss jBPM Designer 5

Web サービス

インストール 16

構成 7

自動始動 16

wrapper.conf ファイル 50